

講義コード	1116520002
講義名称	心理学A 02<春>
科目英文名	Psychology A
開講責任部署	社会学部 社会学科
代表ナンバリングコード	OPSY2400
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 1 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
岡崎 満希子

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	心理学は、人の心のしくみとはたらきを科学的に探究する学問として発展してきた。この授業では、これまで心理学が研究対象としてきたさまざまな領域で明らかにされた基礎的知見と研究成果を概説する。「心理学の研究法」「心のしくみと認知」「心のはたらきと行動」「個人と社会」「人の成長・発達」の各領域に分けて心理学の基礎理論を取り上げ、一般的包括的な内容構成に基づき講義を行う。学びの深化とともに、社会や教育現場で役立つ批判的・論理的な思考・判断能力の向上を目指す。
学習（到達）目標	<ul style="list-style-type: none"> ・科学としての心理学の基礎理論および心理学研究上の基礎的知見・成果を体系的に理解している。 ・子どもの心の発達と発達要因について理解している。 ・日常生活におけるさまざまな心理社会的行動の特徴について、心理学理論と研究法を応用して探究し理解することができる。 ・日常生活における多様な情報に対して、心理学的観点から批判的・論理的に思考・判断して適切に行動することができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：心理学の基礎理論
第2回	心理学の歴史と領域
第3回	心理学の研究法
第4回	心のしくみと認知①：感覚と知覚
第5回	心のしくみと認知②：記憶
第6回	心のしくみと認知③：学習（条件づけ）
第7回	心のしくみと認知④：知能と思考
第8回	心のはたらきと行動①：動機づけ
第9回	心のはたらきと行動②：情動と感情
第10回	個人と社会①：人格・性格
第11回	個人と社会②：他者と集団
第12回	人の成長・発達と心理①：遺伝と環境
第13回	人の成長・発達と心理②：ライフサイクル
第14回	人の成長・発達と心理③：心の発達
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
レポート	
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	<p>①授業内容に関する考えや感想を書いて提出する。提出のタイミングと方法はその都度指示する。</p> <p>②学期末に期末試験を実施する。</p>
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.						m-portへの授業資料（ppt）の掲示、 その他インターネット、DVD、印刷物 等による資料提供

参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行（著）『はじめて出会う心理学（第3版）』有斐閣アルマ ・その他、授業内で示す。
事前および事後学習の指示	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で示すテーマについて、次回までに予習をしておく。 ・授業内容において関心を持った領域やテーマに関して、授業資料で示した参考文献等を通じて理解を深める。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	心理学の基礎理論、心のしくみとはたらき、個人と社会、発達

講義コード	1480230001
講義名称	憲法A 01<春>
科目英文名	Constitutional Law A
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	0LAW1010
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 1 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
森口 佳樹

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	憲法の基本的内容について解説する。憲法規定の内容を理解したうえで、それをめぐる学説・判例について紹介・検討することとする。憲法Aでは、人権規定を中心に講義する。
学習（到達）目標	憲法規定について、自らが主体的に説明できる能力を身につけてもらうことを目標とする。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション、憲法総説
第2回	基本的人権の主体
第3回	人権と公共の福祉
第4回	人権規定の効力
第5回	幸福追求権の意義
第6回	新しい人権の具体化
第7回	平等の意義
第8回	平等権をめぐる判例
第9回	思想・良心の自由
第10回	信教の自由
第11回	表現の自由
第12回	表現の自由をめぐる判例
第13回	学問の自由
第14回	経済的自由権
第15回	身体的自由権

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	10%
レポート	90%

その他	
-----	--

成績評価の方法 (コメント)	受講生数によるが、基本的には試験に代わる単位認定レポートを主たる評価の対象とする。補助的に数回小テストを行い、補充的な成績評価の対象とする。 単位認定レポートは事例式の問題となり、学説・判例の理解を前提として課題に対する考え方を検討する問題となる。成績報告期限との関係で短期間の提出を求めることもあるので留意されたい。単位認定レポートを提出しなければ単位の認定はできない。
-------------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	森口佳樹他	ワンステップ憲法	大学オンライン販売	978-4-7823-0546-1	嵯峨野書院	

参考文献	別冊ジュリスト「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ 第8版」(有斐閣)
事前および事後学習の指示	講義中に指定する判例については、よく復習しておくこと。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	1560440000
講義名称	地域研究ⅠA <春>
科目英文名	Area StudyⅠA
開講責任部署	法学部 法律学科
代表ナンバリングコード	POLS2450
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 1時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
的場 かおり

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	ディスカッション(話し合い)	協同・協調学習(グループ・ワーク、チームワーク、ペアワーク)

講義・演習概要	講義では、政治・外交、経済、社会・文化など様々な分野で、日本と関係の深い「アメリカ合衆国」の歴史を学びます。北アメリカ大陸に建設された植民地からスタートし、その後数世紀を経て世界をリードする大国となったアメリカ。その歴史において画期をなす出来事や概念を取り上げ、多角的に考察することで、歴史的知識を深めるだけではなく、現在のアメリカを読み解き理解するヒントを得ます。
学習(到達)目標	①「世界の市民」として活躍するために必要な国際関係を理解する力が身につきます。 ②アメリカ史を通して、法学・政治学の基礎をなす「自由」、「平等」、「民主主義」といった概念の展開を読み解く力が身につきます。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス（講義の進め方・成績評価・講義の目的）
第2回	大航海時代
第3回	植民地の建設
第4回	アメリカ独立革命
第5回	アメリカ合衆国の成立
第6回	フロンティアとモンロー主義
第7回	南北戦争
第8回	二大政党制の確立
第9回	移民国家と優生学
第10回	帝国主義と植民地
第11回	第一次世界大戦
第12回	繁栄の時代と世界恐慌
第13回	第二次世界大戦
第14回	冷戦
第15回	試験とまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	90%
レポート	
その他	10%

成績評価の方法（コメント）	①試験90%：最終試験の成績を評価します。 ②その他10%：講義への貢献（講義内での発言、コメントシートの提出など）を評価します。
---------------	--

参考文献	<ul style="list-style-type: none">・遠藤泰生・小田悠生編著『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』（ミネルヴァ書房、2023年）・梅崎透・坂下史子・宮田伊知郎編著『よくわかるアメリカの歴史』（ミネルヴァ書房、2021年）・紀平英作編『アメリカ史 上・下』（山川出版社、2019年）・富田虎男・鵜月裕典・佐藤円 編著『アメリカの歴史を知るための65章〔第4版〕』（明石書店、2022年）
事前および事後学習の指示	<ul style="list-style-type: none">◆事前学習<ul style="list-style-type: none">・配信されたレジュメおよび資料にしたがい、指示された事前学習に取り組む。◆事後学習<ul style="list-style-type: none">・解説に用いられたスライド資料を確認しながら、講義内容をリフレクションする。・参考文献などを用いて、自分の関心を掘り下げるとともに、自分の意見をまとめる。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	植民地、独立、合衆国憲法、奴隷、移民、世界大戦、冷戦

講義コード	1787170000
講義名称	日本文化研究-科学と思想A <春>
科目英文名	Study of Japanese Cultures-Ideas of Science A
開講責任部署	国際教養学部 英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	CULT3420
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 1 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
尾鍋 智子

授業形態	講義	アクティブラーニング	その他 グループディスカッション
------	----	------------	---------------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	小レポート/小テスト	ディスカッション(話し合い)	

講義・演習概要	日本に西洋科学が本格的に輸入され出した近代以前にも日本に科学的思想が存在したことは一般にあまり知られていない。本講義では古代の宇宙観から幕末に至る天文知識まで、日本における科学と思想の関係を考える。仏教に代表されるように、他国から思想が伝播する際、科学も思想の一部として移入されることが多い。文化や社会的土壌の相違から取捨選択と変化を経て受容されるわけだが、この変化の様相に映し出される日本文化の特質を調べる。
学習(到達)目標	日本における科学と思想の関係を探ることにより、その受容の過程や変容から、日本文化の特徴を見つけることができ、日本文化へのより深い理解ができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	コース説明及びイントロダクション
第2回	日本の自然観（1）詩歌にみる自然観（吉田1章）
第3回	日本の自然観（2）叙情と叙事
第4回	古代日本の宇宙観（1）北辰から太陽へ
第5回	古代日本の宇宙観（2）日本的宇宙観の確立
第6回	仏教と科学（1）日本仏教概観
第7回	仏教と科学（2）密教と錬金術
第8回	仏教と科学（3）『空海の風景』 唐への留学
第9回	仏教と科学（4）『空海の風景』 空海と錬金術
第10回	朱子学と科学（1）理気二元論と科学
第11回	朱子学と科学（2）西洋科学受容へと向かった朱子学者
第12回	キリスト教と西洋科学（1）その相克について
第13回	キリスト教と西洋科学（2）キリスト教と共に入ってきた科学
第14回	キリスト教と西洋科学（3）日本における受容
第15回	まとめと復習試験

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	40%
レポート	0%
その他	60%

成績評価の方法 （コメント）	「その他」は毎回の授業に関する課題。課題は出席者のみが回答することができる。毎回出席が原則。5回以上欠席すると評価の対象外となる。ただし公認欠席は除く。15分以上の遅刻を3回した場合1回の欠席としてカウントする。
-------------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.			プリント配布			プリントを配布する

事前および事後学習の指示	配布した資料を授業前後に読み、予習復習すること。取り上げるトピックについての基礎知識は、事前に学習しておくことが望ましい。 (事前学習30時間 ・ 事後学習30時間)
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	日本文化、自然観、錬金術

講義コード	14D2510000
講義名称	日本経済論Ⅰ <春>
科目英文名	Japanese Economy Ⅰ
開講責任部署	経済学部 経済学科
代表ナンバリングコード	ECON1570
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 1 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
澤田 鉄平

授業形態	講義	アクティブラーニング	グループワーク
------	----	------------	---------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	小レポート/小テスト	ディスカッション(話し合い)	協同・協調学習(グループ・ワーク、チームワーク、ペアワーク)
	ディベート(討論、討議)		

講義・演習概要	<p>日本経済は、第二次世界大戦後の対米従属・安保体制を前提とした日本特有の資本蓄積および外需依存によって発展したが、今日まで内在する矛盾を温存・強化しており、また世界経済の変化の中で日本経済はバブル崩壊以降、深刻な長期不況が続いている。</p> <p>そこで本講義では戦後日本経済の歴史的発展過程を経済・政策の視点に立脚して振り返り、内在する諸矛盾の検討を通じて、今日求められる日本経済再生の糸口を探っていく。日本経済論Ⅰは戦後日本の復興期から経済成長期を経て長期不況に至る前夜であるバブル崩壊までを、日本経済論Ⅱはバブル崩壊以降今日に至るまでの長期不況の構造を、世界経済の変化を踏まえつつ考察していく。</p>
学習(到達)目標	<p>本講義に積極的に取り組むことを通じて</p> <p>1戦後からバブル期までの日本経済についての体系的な理解。</p> <p>2今日日本経済の諸現象についての要因の考察。</p> <p>を獲得するのが目標である。</p>

講義・演習計画

回	内容
第1回	日本経済の学びとは何か？(イントロダクション)
第2回	米ソ冷戦構造の発展とGHQによる戦後民主化改革、財閥解体、農地改革、労働改革
第3回	朝鮮戦争と特需、高度成長を迎えるための資本蓄積
第4回	重化学工業育成政策と企業集団・系列化 ：高度成長期(その1)
第5回	国際競争力強化、70年代への足がかり ：高度成長期(その2) 1962~70年
第6回	都市流入と地方過疎化 ：高度成長期の弊害(その1)
第7回	公害発生と公害闘争 ：高度成長期の弊害(その2)
第8回	ブレトンウッズ体制の崩壊と日本経済 ：高度成長の終焉(その1) 1970年代
第9回	2度のオイルショック、狂乱物価、輸出競争力を増す製造業 ：高度成長の終焉(その2) 1970年代

第10回	米国双子の赤字、輸出競争力のピーク ：安定成長期（その1）1978～1983年
第11回	日米貿易摩擦とその解決方法、多国籍化の萌芽 ：安定成長期（その2）1984～1986年
第12回	プラザ合意、前川リポートと政策転換 ：バブル経済（その1）
第13回	過剰流動性、実体経済と金融経済の乖離 ：バブル経済（その2）
第14回	公定歩合引き上げ、金融経済の急速な収縮と不良債権問題 ：バブル崩壊
第15回	戦後日本経済の振り返り・ゆがみの頂点 ：失われた25年への道

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	100%
その他	

成績評価の方法（コメント）	課題7回;10点=70点 期末レポート1回;30点=30点 の合計100点満点で評価します。
---------------	--

参考文献	中村隆英（1986）『昭和経済史』岩波書店。 三和良一（2012）『概説日本経済史 近現代 第3版』東京大学出版会。 橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齋藤直（2011）『現代日本経済 第3版』有斐閣。
事前および事後学習の指示	参考文献のうちのいずれかを選び、第二次世界大戦後の日本経済について予習すること。また講義各回はその前の回までの講義を前提とするため、各回を入念に復習すること。 M-Portに資料をアップするので、講義内容を繰り返し読み、わからない部分については自分で調べ、それでも理解できない場合は教員にM-Portで質問すること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	1C30030000
講義名称	教養教育特別講義-日本で働く外国人 <春>
科目英文名	Special Topic in Liberal Arts – Migrant Workers in Japan
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	LBAT1000
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 1 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
小池 誠

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	この講義では日本で働く外国人の問題を取り上げます。偏見と差別なく多様な人々の存在を受け入れる「多文化社会」は、まさに本学が目指す「世界の市民」の理念にふさわしい社会の在り方です。どのようにしたら「多文化社会」を実現できるか、ともに考えましょう。この問題は、みなさんが未来に向かって生きていくうえで避けては通れない重要な課題です。日本社会だけでなく、比較の材料として台湾の事例を紹介します。なお、授業の理解を深めるために必要に応じて資料動画を使います。
学習（到達）目標	講義を通して、以下の3つの目標を達成できるようにします。 ① 日本で働く外国人について正しい知識をもつ。 ② 外国人労働者が直面するさまざまな問題を理解し、自分の言葉で説明できる。 ③ 講義で学んだことをまとめ、それにもとづいて自分の意見を述べるができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	授業ガイダンス：日本で働く外国人と多文化社会
第2回	外国人労働者を必要とする日本社会
第3回	日本で働く「日系人」：受入れの経緯
第4回	日本で働く「日系人」：現状と問題点
第5回	技能実習生：制度の推移と実態
第6回	技能実習生：問題点と改善策
第7回	外国人材受け入れの拡大：「特定技能」
第8回	留学生という名の労働者
第9回	介護の現場で働く東南アジアの女性：受入れの経緯
第10回	介護の現場で働くアジアの人たち：多様な受入れ制度
第11回	日本で暮らすムスリム
第12回	台湾で働くインドネシア人労働者
第13回	大阪で暮らすパキスタン人
第14回	東京の外国人コミュニティ
第15回	まとめ：多文化社会の実現に向けて

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	30%
レポート	25%
その他	45%

成績評価の方法（コメント）	<p>試験は授業内容に関する小テスト（3点）を計10回実施する（計30点）</p> <p>レポートは中間レポート（10点）および最終レポート（15点）の計2回実施する（計25点）。</p> <p>その他は5回の小レポート（3点）と毎回の授業中に書くコメントシート（2点）によって授業への積極的な参加度を評価する（計45点）</p> <p>出席自体は評価の対象にならないので、かならず授業中にコメントシートを書いてください。</p>
---------------	---

参考文献	<p>加藤剛編、2010、『もっと知ろう!!わたしたちの隣人——ニューカマー外国人と日本社会』世界思想社</p> <p>是川夕、2025、『ニッポンの移民——増え続ける外国人とどう向き合うか』ちくま新書</p> <p>田辺国昭・是川夕監修、2022、『国際労働移動ネットワークの中の日本』日本評論社</p>
事前および事後学習の指示	<p>今回の授業までに読んでおく授業授業資料を配布しますので、よく読んでから授業に出てください（事前学習）。また、授業後、かならず資料を読み直して事後学習してください。なお、外国人労働者に関する新聞記事やニュース報道に注目してください。</p>
学習時間	<p>事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間</p>
キーワード	<p>外国人労働者・移民労働者・多文化社会・イスラーム</p>